

まちづくりコーディネーターの活動状況について（8月23日現在）

(1) 活動報告

《令和5年度実績 4件》

派遣 依頼元	派遣内容	人数	出動 回数
自治会	住民会議のファシリテーション（重原）	3	1
	小山自治会勉強会のファシリテーション	3	1
市	まちづくり講座・学習編（市民協働課）	5	1
その他 団体	実行委員会のファシリテーション（ワールド・スマイルガーデン・ツツ木）	1	1
合計		12	4

(2) まちコゼミ（まちコ世話人が実施）【各回詳細：資料1-2参照】

内容	実施回数	累計参加人数
大野ゼミ（地域の課題を解決する手法を学ぶ）	4	31
塚本ゼミ（まちコ各々の活動経験の共有・振り返りを通して学びあう）	3	20

(3) まちコ交流会（予定）

【第1回】

日時：令和5年9月16日（土）15:00～17:00

場所：刈谷市民ボランティア活動センター

内容：まちコミニ講座「マンガラート+Todoリストの活用」

まちコカフェ体験会

【第2回】

日程：令和6年2～3月頃開催予定

内容：まちコ活動収穫祭

【裏面あり】

(4) つなぎの学び舎【詳細は資料1-3参照】

今年度は7月～2月の全7回講座。受講生は13名。

- ・第1回【7月9日(土)】 「まちづくりの想い、聴いて語ろう」
刈谷市民ボランティア活動センター長の米田正寛さん、まちコ5期生の桑畑忠則さん、6期生の飯島明子さんをゲストに招き、「つながりづくり」の大切さを学んだ。
- ・第2回【8月5日(土)】「話し合いの「ファシリテーション」とは」
フリーランスファシリテーターの稲葉久之さんを講師に、実際に体験を交えながらファシリテーションの心構えや基本スキルを学んだ。
- ・第3回【9月2日(土)】「まちづくり活動の現場から学ぼう」
- ・第4回【10月14日(土)】「話し合いの「場づくり」とは」
- ・第5回【11月25日(土)】「まちづくり活動の企画をたてよう」
- ・第6回【12月23日(土)】「つながりたい！広報の仕方を考える」
- ・第7回【2月17日(土)】「わたし発のまちづくりを提案しよう」

まちコゼミ記録

・ 塚本ゼミ 令和5年度 第1回「久保田さんのお話」

令和5年4月25日(火) 18:00~19:30 / オンライン(zoom)

参加まちコ(敬称略): 久保田、石田、桑畑、岡、松浦、小森、塚本 事務局: 刈谷市(小原、前川)、VNS(遠山、加古)

1. 塚本ゼミの趣旨(世話人: 塚本さん)

本日は、久保田さんの活動について色々とお伺いします。また、今後はまちコの交流だけではなく、みなさんの活動についてお話を聞いていきます。そして、次年度からはそれぞれのまちコにフォーカスしたゼミ活動にしていきたいと考えております。昨年度の畑さんから始まり、バトンを受け渡すようにしていきたいと考えています。

2. 自己紹介とアイスブレイク(ファシリテーター: 松浦さん)

自己紹介・まちコ活動の抱負	
	松浦さん まちコ3期生。社会福祉協議会・一ツ木福祉センターにて多世代交流を担当。お茶の会、夏まつりを設けたい。まちコの皆さんにも協力をお声かけしますので、その際はよろしくお願ひします!
	石田さん まちコ6期生。岡崎市の数学教師。かりやマーブルタウン(子どものまち)、まちコ活動や高須地区スポーツ推進委員など、様々な角度から刈谷市に関わりたい。5月5日の大名行列で供侍として出る。
	桑畑さん まちコ3期生。石の上にも三年ということで、市民協働課からのまちコ活動には積極的に参加中。ゼミでは、貴重なお話が聞けることが学びになっている。
	岡さん まちコ3期生。つなぎの学び舎修了後からまちづくり活動に関わるようになる。自分のやりたいこと、目指したいことを見極めるために、まちコ活動に関わりたい。
	小森さん まちコ1期生。安城市にてアンフォーレのコーディネーターをしていた。今後は、刈谷市でも活動を再開したい。今日は久保田さんのお話を楽しみに参加。
	久保田さん まちコ3期生。文化工房かりやの代表。色んな活動から学ばせてもらう。今日の話提供をさせてもらう。
	塚本さん まちコ3期生。今年は、塚本ゼミを無くして、みんなのゼミにしていきたい。みなさんの個々の活動や趣味でも良いので様々なお話を聞きたい。
小原: 市民協働課。家庭菜園、DIYが趣味で、ジャガイモ、枝豆、ミニトマト、大葉、ネギ、ニンジン育て中。	
前川: 入庁2年目。今年度からまちづくり担当になり、分からないところもあるがみなさんよろしくお願ひします。	
遠山: ボランティアネイバーズ事務局。コロナ後、まちコの様々な活動の再開において、今後は楽しみです。	
加古: ボランティアネイバーズ事務局。色んな植物を育成中。	

3. 久保田さんのお話(話題提供: 久保田さん/聞き手: 松浦さん)

まちコ3期生の久保田富士子さんのお話を楽しくお伺いしたいと思います。また、本日は質問形式で進めていきます。

Q. 現在、まちづくりに関わるどんな活動をしている?

・現在は、保育士として勤めている傍ら、刈谷市総合文化センター(アイリス)を盛り上げることを目的に立ち上がった市民活動団体「文化工房かりや」を拠点に、活動して現在12年目である。この他、元NHKアナウンサーに指導を受け子どもたちに向けた朗読活動「イーハトーブの風」。アイリス小ホールを活用し市民が学んだことをアウトプットする場として「洋子の部屋」というイベントが開催されており、お手伝いしている。

- ・「洋子の部屋」では、各テーマを決めて行っている。シニアの方が行うバンドの発表会などを実現してきた。また、ボランティア活動であり、資金がない。そのため、つなぎりと手作りで行ってきたことが好評につながっている。
- ・自分が楽しいと思うことをみんなで行いたい、チャーミングな人になりたいという思いから、活動をしている。

Q. 現在、特に力を入れていることは？

- ・子どもたちのために何か活動したいと思っている。子どもたちが気持ちをアウトプットしてこないのは、デジタル機器に使われてしまっているからではないかと問題意識を持つ。また、デジタルデトックスと共に言葉を大切に活動を行いたいと思い、模索している。賛同してくださる方もあり、今の活動にもつながっている。

Q. 活動の中で、苦労したことは？

- ・文化工房かりやでは、想いを持って参加する人が 21 名いる。その中で自分がやりたいと思う活動ができない場合、自分で新たに主体となって活動を立ち上げ行っている。その際、やりたいことを企画書に落とし込んでいる。つなぎの学び舎で学んだ「想いを相手に伝えること」や企画を深掘りしていくことは、今も活かされている。

Q. アイデアはどのように思い浮かぶ？

- ・旅行や美術館に行くこと、音楽を聴いている場面などでアイデアが出てくる。そして、アイデアを書き留めている。
- ・やりたいと思ったことをアウトプットすることで、自然とつながっていく。また、つながりを大切にしており、人と人をつなぐこともある。閃きはみんな出てくるものであり、その閃きをそのままにせず、ぜひ活用してほしいと思う。

Q. 今後への夢(目標)

- ・コロナ禍もあり、今まで通りとはいかない部分もあるがステップアップできるような企画をしたい。また、まちコ活動への参加、文化工房かりや内で企画をサポートすることや市制 75 周年の企画を考えている。人と人をつなぐことを考えており、みなさんの力も借りたい。また、刈谷市の民話を広げる活動を行いたい。やりたいことが 10 個くらいあり、連休から活動を開始したいと考えている。

Q. 他のまちコへ、何かメッセージ

- ・自分の夢や想いは実現できる。一人ではなくみんなのできるので、一緒に頑張りましょう！

最後に…久保田さんへのエール「スゴイ!と思った点」

- ・遠山:協力者への声かけ、仲間を募って活動につなげていくエネルギーが素晴らしく、勉強になった。
- ・小原:ポジティブな方だと感じた。笑顔を忘れないことが改めて大切だと思った。
- ・前川:人柄が素敵だと感じた。今後の関わりに参考にしていきたい。
- ・加古:アイデアが次々に出てくるのがスゴイと感じた。
- ・塚本:応援したい、実現したい気持ちが止められないと感じた。何かしたいと思った際には、パワフルに楽しそうに話す久保田さんの活動から「自分にも出来るかも」と思えてくる。何かお手伝いしたい!という方がいらしたら、久保田さんの活動に参加して、自分がやってみたいことを見つける機会にしてもらえると良い。他のまちコも巻き込まれている点は素晴らしい。
- ・小森:さらにパワーアップしていると感じた。新たに勇気と力をいただいた。
- ・岡:改めて久保田さんを知る機会となった。お願いすることは苦手であるが、今日のお話から出来るかもと思った。少しずつ活動に活かしていきたい。
- ・桑畑:自分のやりたいことをやる、協力を得るなど、ボランティアの原点に沿っている方だと感じた。また、明るくお願いすることは「つなぎびと」としての活動である。まちコの在りたい形を体現している方。これからもお話を聞きたい。
- ・石田:自分の考えを学校の生徒にも話していくことをしたいと感じた。人と人が実際に会うことの大切さを伝えたい。
- ・松浦:夢は叶うこと、様々な情報を聞きつけて楽しそうに達成してきたことを聞き、自分もできると思った。反省点として、自分は相手が気付いてくれるのを待つところがあるので、一步踏み出すことをしていきたいと改めて感じた。

4. 感想共有と意見交換

質疑応答

岡：文化工房かりややまちコ活動に関わることとなったキッカケは？

久保田：小森さんは文化工房かりやの礎を築いた方。募集要項を見たことから始まり、自分のアイデアが企画として形にできることを学んだ。また、小森さんから自分のアイデアや企画が、文化工房かりやの事業だけではなく市民活動にもつながると後押しされた。そのことも、今の活動につながっている。

小森：文化工房かりやの活動をご一緒した際に久保田さんからはキラッと輝く部分を感じた。自分の想いから企画に落とし込むためにつなぎの学び舎の受講を勧めた。現在の活動は、わたしとしても大変嬉しく感じている。

岡：どのように協力をお願いをしている？

久保田：企画やアイデアだけではなく、人との出会いもメモしておき、アイデアを思い付いたら実際に会いに行く。そして、企画書に落とし込み、企画内容を提案し助言をいただいている。「そんな企画はできないよ」など、失敗することもあるが、共感する人もたくさんうまれている。今後も、共感と協力の輪を広げていきたいと思っている。

感想

桑畑：洋子の部屋の活動が良いな、と思った。デジタルデトックスについて、子どもだけではなく大人も行わなければならないと感じている。久保田さんの活動は、視点が良いなと感じた。

石田：子どもから学ぶことがある。素直な部分や、世代の違いから自分の世界が広がることもある。

お願い

・塚本ゼミ、大野ゼミが同じ週ではなく分けて開催されると参加もしやすいため、今後の開催日程は時期をずらして調整していただきたい。

5. まとめ(塚本さん)

・久保田さんのパワフルなお話を伺えた。コロナ禍であっても活動を行っている方は立ち止まっていなかったと感じた。また、松浦さんの進行も素晴らしかった。久保田さん、松浦さん、ありがとうございました！今回の場を持てたことが嬉しかった。みなさんも、お疲れさまでした！



★次回の予定

「桑畑さんのお話」 ※日程は、後日調整



塚本ゼミ 令和5年度 第2回「桑畑さんのお話」

令和5年6月14日(水) 18:00~19:30 / オンライン (Zoom)

参加まちコ(敬称略): 桑畑、岡、畑、水鳥、山口、安部、石田、塚本 事務局: 刈谷市(小原、内藤、前川)、VNS(遠山、加古)

1. 自己紹介とアイスブレイク(ファシリテーター: 岡さん)

自己紹介・前回以降の活動について/今ハマっているもの	
	<p>石田さん</p> <p>まちコ6期生。共存・協働のまちづくり推進委員会に一般公募委員として参加、高須地区でのイベント企画を始めています。</p>
	<p>畑さん</p> <p>まちコ4期生。法人が20周年を迎えるにあたり、記念誌の発行準備を進めています。</p>
	<p>水鳥さん</p> <p>まちコ4期生。共存・協働のまちづくり推進委員会の一般公募委員として、石田さんと岡さんと共に参加しています。</p>
	<p>山口さん</p> <p>まちコ2期生。明後日から、作手村に行き、山登りと温泉などを楽しみにしています。</p>
	<p>塚本さん</p> <p>まちコ世話人。キツネが家の近くを通りました。ハマっていることは、歴史の本です。</p>
	<p>桑畑さん</p> <p>まちコ5期生。久しぶりに昔聞いていたジャズ音楽を聴くこと、クラシックとジャズを融合した音楽にハマっています。</p>
	<p>安部さん</p> <p>まちコ5期生。刈谷市議会一般選挙立候補者の方に、3分間インタビューを行っています。</p>
	<p>岡さん</p> <p>まちコ3期生。一人でコンサートに行くようになり、今度のコンサートが楽しみでテンションが高いです。</p>
小原: 市民協働課。釣りにハマっており、日焼けと共においしい料理をたらふくいただきました。	
前川: 市民協働課。入庁2年目。運動不足解消に、ゲームで運動を行っています。	
内藤: 市民協働課。リアル脱出ゲームに長年ハマっており、最近ようやく脱出できるようになりました。	
遠山: ボランタリーネイバース事務局。NPO法人の総会準備を進めています。	
加古: ボランタリーネイバース事務局。野菜売り場に出た、パクチーにハマっています。	

2. 「まちコ3年目の私の立ち位置~自分らしくどこに向かうべき?~」(ゲスト: 桑畑さん/聞き手: 岡さん)

- ◆まちコ5期生の桑畑忠則さんのお話を楽しくお伺いしたいと思います。資料と共に、よろしくお願ひいたします。
- ・現在、まちコの活動に関わり3年目になる。自分のまちづくり活動の土台となる活動として取り組んでいるが、今後の活動について整理する必要があると考え、今回のタイトルにした。
- ・大学生まで宮崎県におり、2020年より名古屋市在住。大学では工学部を卒業し、横浜市にある索道会社(ワイヤーを使用し人や物を運ぶ)に勤めていた。その後、自動車部品メーカーに転職。会社で一番思い出深いことは、当時の仲間との交流が続いていること。年1~2回集まって食事会を行う仲間に出会えたこと。
- ・ボランティア活動は、50歳の頃、国際交流協会・国際イベントグループに所属して開始した。現在も続けている。活動の中で、「つなぎの学び舎」を勧めていただいた。所属先にも活かすことができる内容でもあり、受講を決めた。

その他、2022年8月に名古屋市で行われた「まちコーディネーター育成講座」を受講したり、町内活動に参画をしたりしている。現在はまちコ、国際イベントグループ、町内会の活動に関わっている。

- ・まちコ活動は、2021年につなぎの学び舎を修了し、その後主に住民会議のファシリテーターとして関わっている。3年目になり、ファシリテーターとしての役割を理解するようになってきた。本日はこれまでの活動を踏まえ、まちコとしての活動をどのようにしていくのか話していく。
- ・まちコに関心を抱いたきっかけは、「まちづくり」「つなぎ」のキーワードに惹かれてつなぎの学び舎に参加したこと。修了直後は「まちづくり」「つなぎ」のイメージが明確ではなかったが、今では「住み心地、暮らし心地をよくする活動」だと理解している。また、人との出会いがなければ始まらないこと、つなぎの学び舎が人との出会いの場であること。参加者の方も、出会いを求め参加しているであろうことから必然の出会いであり、同じ志を持つ仲間だと感じている。
- ・つなぎの学び舎・実践編にてレポートをまとめていく過程で、まちコとは？をイメージできるようになった。だが、当時はファシリテーターがどのような役割か理解できておらず、高須地区住民会議での派遣活動を経て、自分に出来ることを見付けるようになった。
- ・つなぎの学び舎・基礎編の最後に宿題として企画を作成した。多文化共生などの社会の多様性を浸透させるために、まちコ、ファシリテーターの役割が必要であると考え、「まちコ活動機会確保及び創出」を考えた。気付きとして、まちコとして在りたい姿として「また来てね」と言われるような存在になれると良いと思っている。
- ・初めて住民会議のファシリテーターを行った際に、対面で打ち合わせを行うことが必要だと痛感した。住民会議では、様々な意見を持つ人がいる。趣旨ややり方を明確にすることで、参加者にスムーズに参加してもらえることがわかり、守随さんの「準備が8割」という言葉を理解することができた。実際に住民会議を行ったことからの学びとして、つなぎの学び舎にて実際に実践できると面白いと感じた。
- ・つなぎの学び舎と実践の違いは、まずやってみることである。自分の課題も実際に行うことで理解できる。また、講座であったように「自分事」として捉えていくことである。自分らしく、地域の人の努力が実を結ぶように関わることが大切である。
- ・住民会議は、まちづくりの入口であると感じた。ファシリテーターとして関わった後、その後どのように変化していったのか気になっている。また、まちコはファシリテーターだけなのかという問いが生まれ、今後の自分の課題である。町内会の活動でも、ファシリテーターの必要性を感じている。まちコはファシリテーターだけではなく、そのあとに起こるまちづくり活動に関わることで、課題解決への伴走者となると良いと思っている。
- ・これからの活動として、まちコとしての対応力の幅を広げていきたい。とある講座を受講した際に、参加者の自発性・主体性を引き出すファシリテーターと出会った。自分のファシリテーションが力業であったと反省し、今後はファシリテーターとしてスキルアップしたい。まちコとしての可能性がどこまであるのかを考えながら、自分の経験を話すことができる場が大切であると考え、塚本ゼミのような場が続いてほしい。
- ・最後に、自分の向かう方向として、まちづくりの伴走者にまちコがなっていくこと。まちコの活動として行うべきことは、まだまだたくさんあると思っている。今後もみなさんと共に活動をしていきたい。

3. 感想共有と意見交換

質疑応答

岡：ふりかえりの重要性、自分の経験を整理することが大切と話していたが、具体的にどのように行っている？

桑畑：つなぎの学び舎の宿題で「妄想上等」と書いていたほど、論理立てることや道筋立てることが苦手。まずは妄想して書くことから始めていき、繰り返すことで修練されていく。自分は何をしたいのか、家事や日常生活の中で言葉を見付けることができる。その見付けた言葉をまとめている。また、妻に聞いてもらうことで手直しをしている。

水鳥：町内会の意見をまとめることは大変ではない？

桑畑：町内会で活動を行う方は、まちを良くしていきたいという想いを持つ方が多く、ネガティブな発言が少ない。企画

案を提案する際や、まとめる際に苦労したところはあまり感じていない。

岡: 畑さんの活動が 20 周年を迎える中で、長く続くコツは？

畑: 人のご縁である。サービスを受ける利用者さんが喜び、ご家族から自分へとかえってきている。記念誌を作る中で、どのような励みになったかを聞いてみたところ、人の喜びが自分の喜びになったという意見が多く出てきた。桑畑さんのお話にもあったが、まずは行動を起こしてみることに。その場にいる方をどのように引き出していくのが、ファシリテーターとして一番肝心である。

内藤: 参加者の自発性を引き出すファシリテートとは、どのような場面から感じましたか？

桑畑: 思い出したくても、思い出せないほどスムーズに場が盛り上がっていた。ぜひ、またお会いしたいと思っている。

岡: まちコのステップアップ講座として、講師に来ていただくことやお話を聞くことができるとよい。

感想

岡: これまで出会うまちコはプレイヤーの方が多く、どのように活動していけば良いか悩んでいた。桑畑さんの活動から自分の姿勢を見付けたような気がした。

水鳥: ガールスカウトなどの活動で行う研修会では、まちコで学んだことを活かしている。みなさんのファシリテーションを体験する中で、自分にプラスとなることを見付けていきたい。また、まずやってみること。上手いかわからなくても得られるものがある。行動することを心掛けている。

山口: お話を伺いながら、同じような過程を辿ってきていると感じた。

安部: 同期であり、興味深く話を伺った。ファシリテーションを見習いたいと感じた。まちコは、得意分野を持っていることが多い。何かを共に生み出すことができると良いと思っている。

石田: 桑畑さんと一緒にすると緊張がほぐれることが多く、お手本となっている。

塚本: 桑畑さんのお話もさることながら、岡さんの進行もスゴイと感じた。桑畑さんはまちコに対する冷静な分析をしている。関わった先がどのようになるのか、常に探求されている。ゼミとしての学ぶ場は必要であるが、自分自身、人が好きなこともあり一人ひとりの話を聞く機会を設けた。塚本ゼミは無くすと話しているが、まちコはそれぞれの得意や活動がある。一人ひとりにスポットを当てることでつながっていき、さらなるまちコの活動に繋がっていくことを期待している。ありがとうございました。



★次回の予定

「松浦さんのお話」聞き手: 桑畑さん

令和5年8月1日(火) 18時~19時30分 @オンライン

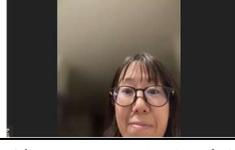


塚本ゼミ 令和5年度 第3回「松浦さんのお話」

令和5年8月1日(火)18:15~19:30 / オンライン(Zoom)

参加まちコ(敬称略):松浦、桑畑、岡、畑、松尾 事務局:刈谷市(内藤、前川)、VNS(遠山、加古)

1. 自己紹介とアイスブレイク(ファシリテーター:桑畑さん)

自己紹介・一番好きな季節とその理由(思い出話も交えて)	
	<p>松浦さん まちコ3期生。秋が好きです。名前にも「あき」が入っていますし、運動もしやすく、おいしい食べ物もあるからです。</p>
	<p>岡さん まちコ3期生。好き嫌いはなく、それぞれの季節に合わせてどの季節も楽しめて好きです。</p>
	<p>畑さん まちコ4期生。夏が好きです。暑くて何も考えなくていいからです。</p>
	<p>桑畑さん まちコ5期生。冬が好きです。しばれるほど寒い中で通勤していた思い出もあり、しんと寒い季節が好きです。</p>
	<p>松尾さん まちコ2期生。</p>
前川: 秋が好きです。食べるのが好きなので、おいしい食べ物が多いこと、紅葉や過ごしやすい季節だからです。	
内藤: 秋が好きです。おいしい食べ物や子どものころに参加していた地域の運動会の楽しい思い出があります。	
遠山: 新緑の季節が好きです。新芽が芽吹いている様子が好きだからです。	
加古: 秋が好きです。暑い夏が終わり、ホッとひとときをついた過ごしやすい季節だからです。	

2. 「塚本ゼミに公開「学んでつないで」まちコ活動へ」(話題提供:松浦さん/聞き手:桑畑さん)

●過去から今まで

- ・刈谷市生まれ、高須町育ちですが、現在はみよし市在住です。子どものころは、田んぼや畑、ドラム缶などで遊び、習い事ではそろばんや習字、英語塾に通っていました。また、4つ上の兄を追いかけるようにセミ採りなどで遊んでいました。性別を間違われることも楽しんでいましたが、言葉使いや姿勢が悪いと言われるようになり、変わりたいと思いはじめ、高校生から着付けや茶道を始めました。
- ・趣味は、好奇心が旺盛で新しいことをどんどん始めています。バンド活動、バイクなど関心があるとすぐに始めていました。ですが、興味を持って取り組むけれど、失敗やケガなどをきっかけに次に移るなど切り替えも早いです。高校生から「日本文化」に関心があり、着付けやお茶に関する活動を続けています。
- ・刈谷市職員になった理由は、「刈谷市のことが知りたい、元気に明るいまちにしたい」と考えたことや女性でも働き続けられる職場に就きたいと思い、公務員を選択しました。管理栄養士の資格を活かした仕事や市民の方と直接会える機会が多い部署に勤めることが多かったです。
- ・勤め続ける中で「私の仕事は人の役に立っている?」と疑問を持ち始めました。担当した課で必要な勉強はしていたけれど、異動する度にまた新しく学ぶ必要が出てくることから、今までの知識が活かしていないのではないかと仕事に対するモチベーションが見出せなくなったこともありました。ですが、公務員は何が一番大事かと考えた際に「対

応力があること」だと気づくことができました。それだけではなく、「私には何ができるのか」を考え続けることで自分のやりたいことが見えてきました。

・タイの方をホストファミリーとして受け入れた際に、日本文化と共通していることとして年上の方を敬う点がありました。ですが、タイへ実際に行ってみると、王政を大切にすることや階級の差があることなど文化の違いを感じました。海外旅行での経験から、「日本は良いな」と思うようになりました。日本の文化と歴史をつなぎながら、元気に明るく暮らしたい!と、日本文化の良いところが受け継がれる活動に取り組むようになりました。

●私に出来る「人と人がつながる活動」はお茶だ!

- ・茶道の先生から紹介していただき、茶道裏千家 淡交会青年部に入会することになりました。青年部は、50歳以下の裏千家茶道愛好会を会員としています。全国に17地区165支部・2支所設置されています。各地区ともに交流を持つ大きな組織です。「裏千家」に伝わる「ことば」の中で、「豊かな心で 人々に交わり 世の中が明るく暮らせるように」という一説があります。海外の経験から感じたように、日本文化の良いところは受け継いでいかなければならないと思い、活動に関わるようになりました。
- ・青年部活動は、道具を自分たちで作ること、地域のお祭やキャンプでの茶道体験など、茶道を通して様々な活動をしていきました。この経験が今の活動につながっています。
- ・とある稽古の際に、茶道の道具「ふくさ」の扱いについて注意を受けたことがありました。注意してくれたロシアの方は「日本の清らかなところに感動して来ている」と話しており、自分もその心を見習いたいと思い、今行っている茶道教室に活かしています。

●次の活動準備・・・の中での出会い

- ・青年部から卒業し、今後どうしようかと思っていた時に茶道仲間の岡さんから「つなぎの学び舎」を紹介していただきました。長寿課に在籍中で、地域に行きたいと考えていたこともあり、受講しまちコに登録することとなりました。
- ・まちコとしての活動歴は、市民協働課さんからのお誘いを中心に、地域を知ることに取り組んでいます。また、自分が伝えられるものとして「茶道」があると思い、イベントの一角にて茶道を伝えることも行っています。
- ・文化活動でも担い手不足が課題としてあります。刈谷市文化協会に入会し、運営のお手伝いをしています。その際に、まちコで学んだスキルを活かすことができます。また、イベントの参加者が集まらないという話は、仕事でも地域の方からのお話などにおいても共通する課題です。茶道では、お茶もおかしを楽しむことができることから地域活動に活かすことができると思っています。みんなでやったら楽しいよ、と朗らかに呼びかけることができます。

●最後に・・・

・地域への関わり方として「元気に明るく生活するために、どうする?」と問いをたてました。自分も楽しめて、みんなも楽しめることを行っていきたいです。コロナ禍になり、気持ちの揺れも出てきましたが、強い意志を持って動こうと思っています。そして、動き始めると仲間ができてきました。場を作り、みんなに協力をお願いすると、お手伝いして下さる方が出てきました。最初から大きな飛躍を求めず、失敗しても立ち止まらず、人生を全うできることがまちコ活動のひとつだと考えています。

3. 感想共有と意見交換

質疑応答

Q. 3~5年後どのように活動を継続していきたいですか?

A. 文化協会に入り、後継者へつなぐこと、日本文化や刈谷市の文化発信を通して、刈谷市をより知ってもらい、愛着を持ってもらうことでまちづくり活動に繋がると感じています。

Q. お仕事とお茶の稽古はじめ市民活動とは、どのようにバランスをとっていますか?

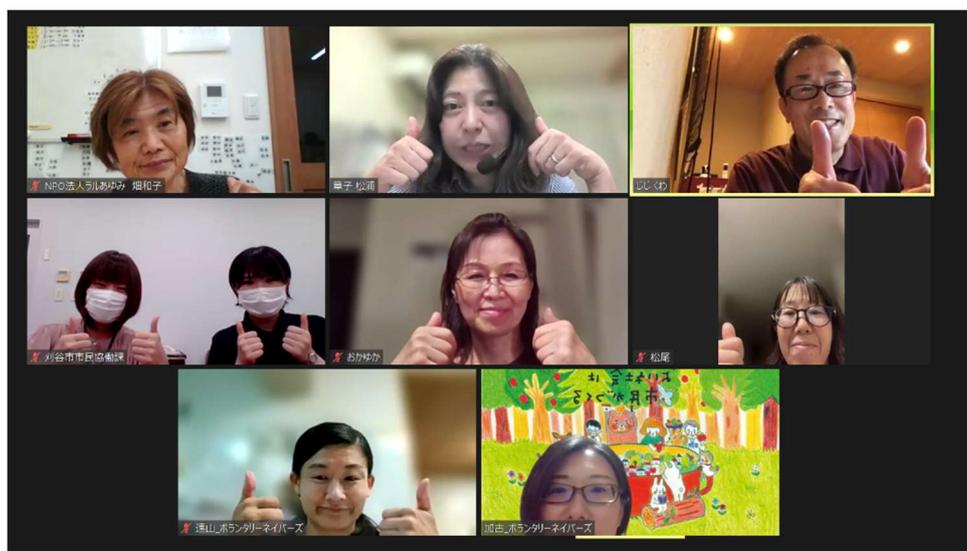
- A. 職業は仕事として行っていますが、お茶のお稽古ではねらいを具体的に活動しています。お休みする際にも、職場の人たちへ明確な理由やねらいを共有しています。
- Q. すぐに行動する力、判断する力は、何が原動力になっていますか？
- A. 自由に行動できる環境があったことで、自分がやりたいように動くことができました。

感想

- ・岡さん：周りを明るくする雰囲気がある方、いつも前向きに人を信じる姿勢はご家族の影響が合っただけだと思いました。一緒に活動して楽しく、長くお付き合いができて嬉しいです。若い世代に刈谷市の魅力をどのように伝えられるのかを大事にしていきたいです。日本文化の継承を文化協会としての活動の切り口で取り組まれる際は、何かお手伝いができればお声かけください。
- ・畑さん：みなさん、それぞれに刈谷市が好きだとか、暮らしたいという思いがあるように感じました。その思いが引き寄せ合っていること、それが集まると人のために何かできることが可能になり、思いがあれば出会うと思っています。
- ・松尾さん：松浦さんの歴史を知れて良かったです。お忙しい中で、まちコ、お茶などの活動がつながり継続されていること、松浦さんの世界や今後の展望を聞き、見習いたいと思いました。
- ・内藤さん：興味を持ったことに対する行動力が素晴らしいと感じました。みんなが楽しめるだけでなく、ご自身も楽しめることをする、という考え方がとても魅力的で、ご自身が楽しんで取り組んでいるからこそまわりの方を惹き付けるんだと思いました。
- ・前川さん：同じ職場だったときから素敵なお方だな、と思っていましたが、今日のお話を伺い、だから素敵なお仲間が集まるんだとさらに感じました。

4. これから取り組みたいこと・大事にしていきたいこと

- ・異業種交流会を行いたいと思っています。人の力が必要となるため、発信していきたいです。地域と連携もしていきたいです。また、大事にしたいことは「自分をよく視ること」です。自分を良く知ることで、物事に取り組むとき、無理をせずに人に迷惑を掛けず、地に足を付けていきたいです。



★次回の予定

「松尾さんのお話」 聞き手：畑さん ※日程は、10月の予定

大野ゼミ 「地域の課題を解決する手法を学ぶ会」～マンダラートと Todo リスト～

2023年4月27日(木)19:00~20:30

刈谷市民ボランティア活動センター C ルーム

参加まちコ(敬称略)8名:石田、岡、桑畑、小森、畑、松浦、水鳥、山口

事務局:大野、遠山

資料:「地域の課題を解決する手法を学ぶ会」スキルアップ研修



【本日のねらい】①マンダラートを使って整理する、②ToDoList(対策一覧表)をつくる(できるところまで)

◎資料をもとに、マンダラート・ToDoListについて説明

・「課題を解決する」には「〇〇を××する」と考えるクセをつけることから。

・整理をする方法 課題 →原因 →対策→具体的な手順 →さらに細かい手順
(ToDoListの場合 [テーマ] →2-1... →「2-3-1、2-3-2...」 「マニュアル」にまとめられる

・マンダラート:課題に対して「なぜ?」を繰り返す手法。「言い換えるとどういうこと?」と問いかけること。

(整理・分類する手法として「KJ法:いろいろな事象を分類する手法」も多く用いられる。)

・ToDoListシートに Howmuch を追加してもよい(「5W2H」)

Q:64の対策が重なることはあるか?

A:基本的にはない。あり得るかもしれないが、対策・手順を多様にするために重ならないように出すとよい。

◎共通のテーマを全員でマンダラートづくりを実践しました。

▼課題(テーマ)「役員のなり手を確保する」

1)「なぜ確保できないの?」の問いかけに、「〇〇が××だから」をふせんに書き出す。

2)一人ずつ読みあげて共有。同じ内容があればふせんを1つにまとめてテーマを絞り込む。

3)さらに、重なる内容はないか、意見交換して、8つに絞り込む

「①役が務まるか不安である」「②楽しくなさそう」「③負担が多い」「④責任が重そう」「⑤時間を取られる」

「⑥役員の見返りが欲しい」「⑦近所づきあいが煩わしく関わりあいたくない」「⑧地域に対する関心を持ってない」

<要因として考えたこと>

・文句を言われそうだから/否定的な態度をとられ気分が悪くなるから

・責任が重そう(お金の管理など)

・何をするかわからない

・負担(時間の負担、経済的負担、法やルールを勉強しなければいけない)

・高齢で動きが取れない

・家族の協力が得られない(休みが合わなくなる)

・関心がない/楽しくなさそう/魅力が伝えられない

・地区の人を知らない/知らない人に協力を求められない

・断れば誰かがやってくれる

・任期が長い/次の役員が見つけれないから

・見返り(報酬・現物支給も含む)



●次回の予定:5月25日(木)19:00~20:30 市民ボランティア活動センター/zoom 併催

・「マンダラート・ToDoList」の実践(8つのテーマから対策の検討)

大野ゼミ 「地域の課題を解決する手法を学ぶ会」～マンダラートと Todo リスト～

2023年5月25日(木) 19:00~20:30 @刈谷市民ボランティア活動センターC ルーム

参加まちコ(敬称略):石田、岡、桑畑、小森、松浦、山口 事務局:大野、小原、前川、遠山

配布資料:「課題解決の技術」スライド資料(前回配布:Todo リスト見本)

【本日のねらい】ToDoList (対策一覧表)をつくる

(前回のふりかえり).....

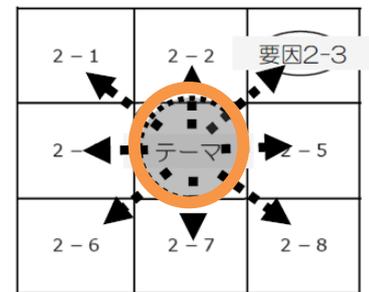
▼課題「役員のなり手を確保する」をテーマにマンダラートづくりを実践

- ・「なぜ確保できないのか」の問いかけに「〇〇が××だから」を付箋に書き出す
- ・付箋の内容が似ているものを集約し、以下8つに分類した

「①役が務まるか不安である」「②楽しくなさそう」「③負担が多い」「④責任が重そう」「⑤時間を取られる」「⑥役員の見返りが欲しい」「⑦近所づきあいが煩わしく関わりあいたくない」「⑧地域に対する関心を持ってない」

◎上記、①~⑧のうち、付箋の数が多い下記2つの対策を検討した。

【①役が務まるか不安である、⑦近所づきあいが煩わしく関わりあいたくない】



▼マンダラートの原因・要因を考え、整理する

- ・(前回ワーク) 要因の付箋(①および⑦)の対応策を付箋に書き出す
- ・似た要因はまとめて対策を書いても可
- ・書いた付箋を読み上げながら、模造紙に貼りだし、同じ意見を重ねる
- ・対応策を8つに絞り込む
- ・マンダラート(様式)に書き出す

★対応策を書き出すときのコツ

- ・「〇〇は××する」を徹底する
 - 説明が加わっていると分類が難しくなることも。
 - 説明コメントの中には、手順や具体的な内容が書かれていることも多く、Todo リストを作るときに役立つので、消さずに残しておくといよい。
- ・「●●がない」の場合、意味をひっくり返すことから始めれば考えやすい(例:「地区の人を知らない →地区の人を知る」)
- ・言い訳が書かれている(言い訳を言うのはなぜ?→つまらないのはなぜ?→興味・関心がないのはなぜ?・・と掘り下げると要因にたどり着くこともある)
- 最初嫌がっていても、やってみたら楽しかった!と続ける人もいますので楽しく参加する機会づくりとつなぐ役割は大切。



	対策2-3-2		対策2-3-3
	対策2-3-1		対策2-3-5
	【重要要因】 2-3		対策2-3-8
	対策2-3-6		対策2-3-7

▼Todo リスト

- ・マンダラートで方向性を決めたら、1つの対策に対して、具体的に実行する手順をかき出す(上記シート参照)

●次回の予定:6月22日(木) 19:00~20:30 市民ボランティア活動センター/zoom 併催

・「マンダラート・ToDoList」の実践(8つのテーマのうち、残るテーマの対策検討)

大野ゼミ 「地域の課題を解決する手法を学ぶ会」～マングラートと Todo リスト～

2023年6月22日(木) 19:00~20:30

刈谷市民ボランティア活動センター C ルーム

参加まちコ(敬称略) 10名:飯島、石田、岡、桑畑、小森、鈴木小枝、松浦、水鳥、山口、【オンライン】松尾、事務局:大野、小原、前川、遠山

資料:「地域の課題を解決する手法を学ぶ会」スキルアップ研修



【本日のねらい】ToDoList(対策一覧表)をつくる

◎【要因】役が務まるか不安の【対策案】(「1-1」~「1-4」)の手順を検討した。

1) 個人でふせんに書き出す ⇒ 2) ひとりずつ読み上げながら貼りだす ⇒ 3) 同じ内容のふせんを重ねて貼る

★手順を考える際のコツ: “ここまで書いたらわかるだろう”, という内容にまで細かく分解すること

【対応策 1-1: 役員のやることを知る】: どうやって知る?(どうやったら知る<わかる>ことができる?)

- ① 聞く(やったこと)
- ② 読む(記録、規約、資料)
- ③ 参加する(やってみる、体験する)



【対応策 1-2: 魅力を伝える】

1) 「魅力」と「伝える」に細分化し、「魅力ってなに?」「伝えるって何?」「言い換えるとどういふこと?」など問いかけ、言葉の意味を再考する。

2) 書き出したふせんの内容から、「魅力」にあたる内容と、

「伝える」にあたる内容に整理する

◎「魅力」・・・楽しかったこと、ためになったこと、
人の役に立つこと、興味を持てたこと、好きなこと。

- ① 皆さんが喜んでくれたこと
- ② 自分が(参加して・やって)よかったこと
- ③ 人から感謝されたこと・ありがとうと言われたこと

【魅力】	【伝える】
自分が楽しかった	話す
みんなが楽しかった	見せる(魅せる)
感謝された	載せる(読ませる)
達成感があった	

【対応 1-3: 説得力を身に着ける】: 相手が理解・納得し、行動するまで導く力を習得して、発揮できるようにする



※「研修会に参加する」「参考本を読む」など、身に着ける機会も手段に加える

【対応策 1-4: 意見を受け止める】: 相手の言ったこと、考えていることを、すぐには、否定しない

◎意見を受け止めるとは・・・相手の考えを傾聴する(賛否にかかわらず)、あいづちを打つ(同意)、否定しない

●次回の予定: 7月27日(木) 19:00~20:30 市民ボランティア活動センター/Zoom 併催

・「ToDoList」の実践(「役が務まるか不安」対策の検討とリスト右側(スケジュール等)の作成に着手)

大野ゼミ 「地域の課題を解決する手法を学ぶ会」～マンガラートと Todo リスト～

2023年7月27日(木) 19:00～20:30

刈谷市民ボランティア活動センター C ルーム

参加まちコ(敬称略)7名:石田、岡、小森、鈴木小枝、畑、松浦、水鳥

事務局:大野、前川、遠山

資料(まちコルームに掲載):「課題解決の技術



～マンガラートと ToDoList を組み合わせて～

【本日のねらい】 ToDoList(対策一覧表)をつくる

◎【対策】「役員のやることを知る」を、「手順=準備する+実施する+後始末する」に分解しました。

ワーク結果より一部を抜粋 【対策:やったことを聞く】の分解(案)

- ①準備する 筆記用具を用意する/用紙を用意する/何を聞くかを整理する/アポイントをとる
- ②実施する あらかじめ設定した質問にしたがって聞く/項目だけでもよいのでメモをとりながら聞く
- ③後始末する メモをみて議事録にまとめる/清書して記録する

★手順に分解するときのコツ

- ・1つの手順について、作業手順を書かなくても、誰が行っても滞りなく進む内容まで細分化すること。(ToDoリストは行を追加して、下の階層を増やしていけばOK)
- ・手順が思い浮かばないときは、自分がその立場だったら(前任者から役を引き受ける場面)を思い浮かべるとよい。
- ・手順が多く出てしまうときは、範囲がひろすぎる場合がある。「制約条件」をつけて考える
とまとまりやすい。(例:「話す」→『自分が楽しかったこと』を話す)



★ToDoリストの活用

- ・ToDoリストをつくる作業は「整理」すること。
- ・ToDoリストを用いると、表を機械的に埋めることで、作業手順と役割分担表をつくることのできる点が利点。
- ・「責任者」「担当/部署」の列は、担当者が次の手順の責任者となる形がよい。(右図参照)

	責任者	担当/部署
手順:2-3-1-1	Aさん	Bさん
手順:2-3-1-2	Bさん	みんなで
…(以下略)		

【大野さんからコメント】

マンガラートは今回で一区切りとします。「役員の成り手がいない」をテーマとして取り組んできましたが、ぜひ皆さんの“自分ごと”の問題で取り組んでみてください。ひとりでは難しかったら、ゼミに集う仲間と続けてください。

◎次回において

- ・ゼミに期待するテーマを意見交換した結果、「**プレゼンテーションの技術**」に決定しました。

(内容案)5枚程度のスライドにまとめて発表する方法をレクチャーした後、5枚の絵コンテをつくり、最後に発表資料を作成するところまでを目指します。

※次回は講義を中心に行います。今後、パワーポイントを使用する場合はパソコンを持参いただく場合があります。

●次回の予定:8月24日(木)19:00～20:30 市民ボランティア活動センター/Zoom 併催
・「プレゼンテーションの技術」



まちづくりコーディネーター養成講座



「つながる」コツを
学ばと、活動って
元気になるね！

まちづくり
活動する人を
応援したい！

地域の活動が
もっと活発に
なったらいいな！

聞き上手になって
周りの人を
支えたい！

つながりの学び舎

令和5年度 第7期

開催日 : 令和5年7月9日(日)~令和6年2月17日(土)

応募締切: 令和5年6月19日(月)必着

講座内容

第1回 まちづくりの想い、聴いて語ろう

7月9日(日)13:30~16:45 講師: ^{こめだまさひろ}米田正寛さん (刈谷市民ボランティア活動センター センター長)
刈谷でまちづくりを実践している、まちづくりコーディネーターなどから、「つながりづくり」の大切さを学びます。その後、受講者同士が知り合い、各自が取り組んでいること/こんなことやれたらいいなと思う夢をざっばらんに語り合います。



第2回 話し合いの「ファシリテーション」とは

8月5日(土)13:30~16:45 講師: ^{いなばひさゆき}稲葉久之さん (フリーランスファシリテーター)
まちづくりでは、一人ひとりのつばやきを組み合わせるグループの合意を醸成する話し合いが大切です。体験を通して、ファシリテーションの心構えや基本スキルを学びます。



第3回 まちづくり活動の現場から学ぼう

9月2日(土)13:30~16:45 講師: 地域のNPO・地縁組織
暮らしやすいまちづくりを担う「自治会・公民館活動」、新しい社会課題に取り組む「NPO・ボランティア活動」など現場のお話を伺い、まちづくりの喜び・苦勞について学びます。



第4回 話し合いの「場づくり」とは

10月14日(土)13:30~16:45 講師: ^{いなばひさゆき}稲葉久之さん (フリーランスファシリテーター)
講義や一方的な情報提供にとどまらず、参加者がより学びを深め、創造的に話し合える「場づくり」とは何か?どんな手法が使えるのか?を学びます。



全プログラムを通して、藤森幹人(NPO法人ボランタリーネイバーズ理事/対話計画代表)が、みなさんが楽しく学び合えるようにサポートします。

第5回 まちづくり活動の企画をたてよう

11月25日(土)13:30~16:45 講師: ^{いけだてつや}池田哲也さん ((一社)地域問題研究所)
自分のやりたい活動が、地域に必要とされる活動になり、みんなが楽しく参加できる活動にするため、まちづくり活動の企画のコツを学び、自分が関わっている(関わりたい)活動の魅力アップを考えます。



第6回 つながりたい! 広報の仕方を考える

12月23日(土)13:30~16:45 講師: ^{おだもとぎ}織田元樹さん ((特非)ポラみみより情報局 代表)
企画した活動への参加者募集やボランティア募集など、伝えたい人々に伝わるための広報の仕方を考えます。また、第7回企画発表に向けたプレゼン手法(KP法)も学びます。



【実習】 企画書作成、発表準備(12月~1月)

講座での学びを活かして、自らが関心ある身近な出来事や課題解決のためのまちづくり活動、または話し合いの場づくりを企画立案し、最終回に発表します。参考になる事例の調査(インターネットや市民ボランティア活動センター等を活用)をふまえて企画書を作成することを課題としています。



第7回 わたし発のまちづくりを提案しよう

2月17日(土)13:30~16:45
講座での学びや仲間との出会いを活かして、自ら取り組んでいる/取り組みたいまちづくり活動、または話し合いの場づくりの企画案をまとめ、発表します。そして、今後は「つなぎびと」としてどう行動していくか宣言をします。



■会場 (全回共通) 刈谷市民ボランティア活動センター 談話スペース (刈谷市東陽町 1-32-2)

「つなぎの学び舎」は、こんな講座です。



その1 > 楽しくって、具体的

- ・さまざまな人・団体とつながりをつくる上で基本になる「話を引き出す」「企画する」「情報を伝える」といった役立つ技術が学べます。
- ・講師やゲストは、まちづくりの実践者です。具体的な経験に基づいて学べます。
- ・講義を聞くだけでなく、グループで話し合ったり、自分の経験を振り返ったり、地域のNPO・地縁組織からお話を聞いたり…。そんな体験を含んだ学びを通して、これからの活動のヒントや目標が自然に見えてきます。

その2 > 仲間や応援者に、出会う

- ・これまで、老若男女はもとより、地域の役員、スポーツやパソコン等の指導者、防災や子育て等のNPO・ボランティア活動のメンバー等、多彩な活動者が参加しています。普段とは異なる人の輪が広がります!
- ・つなぎの学び舎の先輩方とお話する機会もあります。さまざまな人との出会いや参加者同士のつながりによって「参加者や担い手集めで困った時、応援してくれた」という声もよく聞かれます。

その3 > プランづくりで、夢を形に!

- ・最終回では、「こんなことをやってみたい!」という想いをプランにして発表します。新たな企画でも、今までの活動に(少しだけ)工夫を加えた内容でもOKです。プランをつくることで、実現に一步近づくことができます。

その4 > 自分にも、他者にも活かせる

- ・これまでのつなぎの学び舎 修了生は、自身で発表したプランに取り組んだり、学び舎でのご縁から他の活動の協力を回ったり、自分の知り合いに声をかけてつながりづくりに一役買ったりと、大小問わず、学んだことを様々な形で活かしています。



〈過去の受講者が発表したプランの一例〉

- ☆ウキウキワクワク元気、笑顔、希望あふれる刈谷まちづくり
- ★年は取ったがまだまだイケル! 余生はボランティア活動
- ☆外国人も一緒にやろう避難訓練、みんなで助け合おう地域の輪
- ★ルールはだれのため(ゴミ集積所の管理)
- ☆世代を越え地域活動の楽しさを伝え、人の輪を広げる
- ★遊びながら学ぼうさい「誰もが防災士のたまご」~防災は日常の応用~
- ☆子ども同士、保護者同士のゆるいつながりづくり『こどものまち』
- ★まちコの、まちコによる、まちコのためのゼミ

まちづくりは、「一人の20歩」より、「20人の一歩」の方が 効果も楽しさもアップします！

そのための上手な話し合いの仕方や魅力的な企画づくりって、慣れてないしよくわからない・・・と感じていませんか？

そんな方にピッタリなのが「つなぎの学び舎」です。地域活動・PTA・ボランティア・学習サークルなど、刈谷のひとやまちを元気にしたいと思っている人が集まって、学び&語り&交流を深めながら、「さまざまな人&団体とつながる力」を育てていける講座です。

まちづくりコーディネーター(つなぎびと)とは？

- ・まちづくりコーディネーターは、刈谷市民の誰もがいきいきと輝いて暮らせるまちにしていくなめのお世話役です。
- ・「まちづくりを“他人ごと”にせず、“自分ごと”として取り組む人を刈谷で広げる工夫をしていくひと」「地域活動やボランティア・NPO活動等を行っている団体同士、また、企業や大学等とのつながりづくりをサポートするひと」です。刈谷市では、そんな「つなぎびと」となって、魅力的なまちづくりを進めていきたい人たちが出会い、学びあう『つなぎの学び舎』を行っています。



参加者募集要項

対象者	刈谷市で自治会・女性の会・子ども会・公民館活動といった地域活動や、ボランティア・NPO活動などのまちづくり活動をしている人。これから活動を始めたい人も歓迎です！
定員	20名程度
参加費	無料
修了の要件	<ul style="list-style-type: none"> ・原則4回以上の出席(全7回)と企画書の提出を要件として、修了証を授与します。 ・修了された方には、「認定つなぎびと」として「まちづくりコーディネーター」へ登録し、まちづくり活性化に向けて活躍していただくことを期待しています。 ※詳しくは、刈谷市ホームページ「まちづくりコーディネーター登録者募集!」をご覧ください。 https://www.city.kariya.lg.jp/kurashi/shiminkyodo/kyoson/1004028/1004030.html
応募方法	<ul style="list-style-type: none"> ・所定の申込用紙に必要事項を記入して、郵送、FAX、メールまたは直接、刈谷市市民協働課へお申込みください。 ・申込用紙は、刈谷市民ボランティア活動センター、各市民センターなど公共施設で配布しているほか、刈谷市ホームページからもダウンロードできます。 ・申込期間終了後、書類選考を行い、その結果を全員にご連絡いたします。(6月下旬予定)
応募締切	6月19日(月)必着

■申込先・問合せ先

刈谷市役所 市民協働課 〒448-8501 刈谷市東陽町1-1

【TEL】 0566-95-0002 【FAX】 0566-27-9652 【E-mail】 kyodo@city.kariya.lg.jp

【HP】 <https://www.city.kariya.lg.jp>

※この講座は、刈谷市共存・協働のまちづくり推進委員会が方針決定し、NPO法人ボランタリーネイバーズが運営支援をしています。

共存・協働による地域活動の活性化に向けた検討

資料 2

【協議の方針】

- ・地域活動の活性化に向けて、共存・協働によって、今後、各自治会等で取り込まれるとよいことについて検討する。
- ・元気な地域応援交付金の活用やまちづくりコーディネーター（まちコ）派遣を通して、課題が具体的になっている地域をモデルに、取組を考える。

（世帯数・自治会加入率は令和4年4月1日時点での数値）

自治会	小山地区	重原地区	高須地区
世帯数	6,600 世帯	2,324 世帯	1,291 世帯
自治会加入率	60.1%	69.6%	99.7%
元気交付金申請状況	○2016～18年度に「地域情報の共有化事業」 2019～21年度「安心・安全な街、住みよい 小山の街づくり」事業が採択	○2023年度の申請に向けて住民会議を開催 し、まちコ派遣を行った。	○2021～2022年度「多世代交流による地域 の活性化と子どもの社会教育によるコアの 見えるまちづくり」他、2020年、2017～ 18年度にも事業採択されている。
地域の課題・取 組み状況	・広報誌の発行により、多くのクラブ活動や事 業が行われていることが顕在化した。 ・歩け歩け大会、盆踊り等の既存事業の魅力ア ップ、子どもと高齢者が集うふれあいサロン 等が取り組まれている。 *2023年2月実施の住民会議（まちコ派遣） で話し合った課題 ①自治会加入低下、 ②役員のなり手不足、③子ども会会員の減少	・上記の住民会議では、地域での自主活動に ついて「①楽しく継続するには」「②グルー プ活動の課題（＝初心者と経験者が一緒に 楽しむには、会の運営の仕方）等」を話し 合った。	・2020、2021～22年度の事業では、ボラン ティア団体「高須のがっこう」に自治会が 委託する形で、若手の視点での地域活性化 に取り組んでいる。 ・事業毎に「子育て世代ボラ」「中高生ボラ」 「一般ボラ」を募って住民の巻き込みに努 めている。地区役員も「高須のがっこう」 に協力する関係ができています。
共存・協働によ る取組みのテー マ	*住民会議で話し合った対応策例) 自治会のメリットの情報提供、SNS活用、お やじの会などボランティアの活用、役員の役 割の細分化等	・公民館の自主サークルが元気交付金を通し て活躍を広げ、新しい仲間づくりを進める 中で住民参加のすそ野を広げる	・イベント的な事業に関わってくれている人 たちが日頃の地域づくりにも関わっていく ような展開につなげる
その他	自治会の情報発信についてモデル的な地区		子ども・若者の育成を地域が応援している事 例としてモデル的な地区

【今回の協議】

- ・地域活性化の課題を確認
- ・共存・協働で取り組めるテーマ
を検討

【2年間の部会】

- ・テーマの課題を細分化
- ・課題の解決方法について検討
（だれが、どのように）

【部会の成果】

- ・検討した解決方法をまとめる
→モデル地域にて、共存・協働
を通して実行